

令和 2 年 4 月 16 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
732665

代表者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校
 校園長名： 林 憲治郎
 電 話： 06-6674-3612
 事務職員名： 尾上綾香
 申請者 校園名： 大阪市立墨江丘中学校
 職名・名前： 教諭 橋口徳治
 電 話： 06-6674-3612

令和 2 年度 「がんばる先生支援」 研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	体験型探求学習による教育の効果			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験型、探求学習による問題解決能力の向上と学びの定着率を調査する。 ○すべての子どもたちが認め合える教育活動の展開 ○「いのち」をテーマとしての人権教育、SDGsに即した持続発展教育の展開 ○アドベンチャー教育で、初めて出会う生徒、特別支援生徒とのチームビルディングによる社会認知と、共に問題解決に挑む力を育む。 ○アドベンチャー教育による多様な学びの調査（教科教育） ○日本における一般公立中学校でフルインクルーシブ教育の可能性を探る。 ○不登校、いじめなど現代的の教育課題の改善により安心で安全な学校づくり 			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>アメリカ国立訓練研究所のラーニング・ピラミッドによると一般的な授業である「話を聞く」「教科書を読む」形式の学習定着率は5～10%でしたが、体験を通じて学ぶことで得られる学習定着率は75%という報告がある。学習効果に10倍の差があることが明らかとなった。つまり、極論、教師の話や教科書を見るだけの授業では翌日学んだことは忘れているのである。本校で校外学習として昨年度からアドベンチャー教育を取り入れ、体験した生徒は、体験を通して「人との深いつながり」や「心から仲間を想う気持ち」を自然と学習し、学んでいった。こうした経験からの学びが人とのかかわり方を変え、互いに認め合える空間ができる感じた。人の関わり方を考えていく上で、アドベンチャー教育（自然環境の中で体験を通してミッションが与えられ、コントロールされた環境の中で問題解決していく教育）を通じて仲間と一緒に乗り越えられない困難なアクティビティやルールの中で「人とのつながり」「思いやりの心」を自然と学び、体験を通じて子どもたちの絆、雰囲気のいい学校ができ、これから時代を切り拓く人間力開発教育につなげたいと考えている。生徒の主体的な学びや対話的学習を促進する教育は様々な形態があるが、体を使いながら自然と会話をし、他人と共に課題解決を乗り越える学び方がアドベンチャー教育には数多くある。変化が激しい時代に様々な角度から学習方法を模索していき、新たな時代の価値観を生徒が今後、自ら生み出せるためにも必要な教育だと思う。「命」を大切にする、「よりよく生きようとする」「つながりを大切にする」こうしたメッセージを知識で学ぶのだけではなく、実際に体験を通じて習得し、社会へつなげていくことで生徒の変容がある。人は感情が動いた時に忘れることができない記憶へと定着する。友だちから困っているときの一言、先生からの困った時の一言は一生忘れることのできない記憶となり、それが自分を支える軸となる。普段の学校生活の中でもこうした感情を多く体験することが子どもたちの共生と自立を促し、問題解決する中で対話的、協同的な学習環境ができるいくのだと思う。授業での学び方の仕掛けを沢山つくる授業技術を多くの学校教員に広め、学習定着度を格段に上げ学力向上にも繋げたいと考えている。</p>			

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

732665

代表校園

大阪市立墨江丘中学校

校園長名

林 憲治郎

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>○関西大学人間健康学部とコラボして、関西大学浅香山キャンパスのアドベンチャーエリアを使った校外学習を実施する。</p> <p>○大阪教育大学平野特別支援学校とコラボし、体験学習による人権教育の実施を行う。</p> <p>○アドベンチャー教育を用いた学校運営、指導を行っている関西大学人間健康学部のゼミ、株式会社マーベラスラボ、玉川学園の視察、研修に参加し伝達講習会を実施する。</p> <p>○校内研修会、授業研修会を年間3回以上実施し教育手法の講習会を実施する。</p> <p>○各学年アドベンチャープログラムを用いた総合学習を行い、協同的学習の学びの取り組みを行う。</p> <p>5月 教職員・保護者・生徒への学習方法によるアンケートの作成・実施・分析 6月 校内授業研修会の実施と今後の学習方法の分析 7月 体験型学習プログラム実施校の視察と分析 アドベンチャープログラム アクティビティの施設設備の確保 大阪教育大学平野特別支援学校との連携校外学習の実施 8月 体験型学習アドベンチャープログラムによる実施教育機関研修 9月 協同的学習プログラム 他校との連携 10月校外学習による他校生徒、支援生徒との交流学習 11月校内授業研究会による学習方法の分析 公開授業 12月生徒、教職員、保護者による学び方による学びの定着についてのアンケート（他校も含む） 1月 全市へ研究発表会の実施（参加者からの学びの方法アンケート実施） 2月 成果のまとめと分析、今後の課題整理</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果1】</p> <p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p>大阪市立墨江丘中学校学校教職員の授業力の向上に貢献する。体験時の生徒の様子、体験前後の生徒のアンケートの集約から、生徒のインクルーシブ教育における気持ちの変容を探る</p> <p>《検証方法》</p> <p>保護者、生徒アンケートのわかりやすい授業の評価ポイントを昨年度より平均5ポイント上昇させる。 生徒アンケートの実施。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p>学びの定着度に関する研究を実施し、教員自らの指導方法の見直し、またアクティビティの活用を授業内でも構築し、教師が生徒への学び方、指導方法の見直しを行う。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事前調査アンケートを実施し、子どもたちの学び方に関する実態調査を行い、学習の定着尺度の設定を行い、分析を行う。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p>問題解決能力アクティビティを実施することにより、先生と生徒、生徒同士の信頼関係をより深く構築することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校アンケート「先生に質問をしやすいですか？」 「先生のことを信頼していますか？」の項目を3ポイント以上上昇させる。</p> <p>【見込まれる成果5】</p> <p>大阪市教職員アンケートの学び方、学ぶ方法を模索することができより大阪市の学力の向上、学校活性化につながる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>研究発表会で、学ぶ方法について再検討する項目を作り、自分の授業スタイルを再検討する項目を65%以上にする。</p>

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

732665

代表校園

大阪市立墨江丘中学校

校園長名

林 憲治郎

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果5】 不登校生徒を各学年平均7名以内と、学校の居場所、人間関係づくりを進める。</p> <p>『検証方法』 不登校生徒数を昨年度旧2年生8名、旧1年生11名の人数を各学年7名以内の平均人数になるようにする。</p> <p>【見込まれる成果6】 本研究発表会の発表内の満足度「本研究が満足した」の項目を参加者から90%以上の満足度を達成する。</p> <p>『検証方法』 本研究発表下でのアンケート項目で参加者全員からアンケート調査を行う。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="409 765 1442 826"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 1 月 22 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立墨江丘中学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】</p> <p>他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 3 年 1 月 22 日	場所	大阪市立墨江丘中学校
日程	令和 3 年 1 月 22 日	場所	大阪市立墨江丘中学校			
8	代表校園長のコメント	<p>本研究は、知識重視の教育ではなく、生徒が体験の中で様々な感情に気づき、その体験学習を通じて人とのつながりや結びつきについて探求する研究である。生徒が体験を通じて習得した学びは、今後の人生において、一生の宝となるものであり、忘れられないものとなる。また、大阪市の目指す、協同的学習の習得、教師力向上にも大いに貢献できる内容である。また、インクルーシブル教育との共同学習により、よりよい社会性が身に着き、発展的人権教育であり、今後さらに深めていくことで社会的学びの変化に対応した研究である。公教育の果たすべきものが日々変化していることから、民間と公との役割分担、連携をさらに促進することにより、大阪市の財産である子どもたちの力を様々な角度から高める本研究を、是非選定いただきたい。</p>				